

これから流行ってくるインフルエンザです。インフルエンザは、インフルエンザウイルスという病気でございますけれども、潜伏期が1日か3日ぐらいですね。インフルエンザには種類がありまして、大きく分けるとA型とB型とC型があります。しかし、C型は余り流行しませんから、人間のインフルエンザといえますとA型とB型です。その中には、A型の中のソ連、それから昨年流行りましたH1N1ですけれども、亜型の豚インフルエンザ。それから、アジア風邪。これは最近なくなりましたけれども、現在流行しつつあるのが香港型。それから、来てほしくない、非常に高病原性と言われる鳥インフルエンザですね。これが、これから流行りましたら本当に大変になると思います。それからもう一つがB型です。現在、新型インフルエンザワクチンをしていらっしゃると思いますが、新型インフルエンザワクチンの今年のタイプは、この豚インフルエンザと香港と、それからB型が入っております。ですから、この鳥インフルエンザが流行らなければ、今のインフルエンザワクチンで十分効果がありますから、ぜひ、今やっつけていただいている新型インフルエンザワクチンを早く受けていただきたいと思います。

インフルエンザは、決して風邪ではありません。風邪よりも重症な病気です。風邪とは明らかに区別して考えていただいたほうがいいと思います。風邪と違いまして、昨年、豚インフルエンザで流行りました子供の重症肺炎。これは本当に我々は、目の前で子供たちが呼吸困難になっていく姿を見てきました。インフルエンザは、非常に重症です。

インフルエンザ

原因) インフルエンザ・ウイルス
 感染経路) 飛沫感染
 潜伏期間) 1～3日間
 感染期間) 発症1日前から発症後3～5日

インフルエンザウイルスの種類

- A型
 - H1N1(ソ連型)
 - H1N1(豚型)
 - H2N2(アジア型)
 - H3N2(香港型)
 - H5N1(トリ型)
- B型
- C型

インフルエンザの症状

- 発熱
- 咳嗽・鼻汁
- 関節痛・筋肉痛・頭痛
- 下痢・嘔吐

インフルエンザの合併症

- 肺炎
- インフルエンザ脳症
- 心筋炎

インフルエンザの診断

- 血液中の抗体
 - 鼻汁中のウイルス
- 迅速抗原検査

インフルエンザ脳症

インフルエンザに伴って

- 意識障害
- 痙攣
- 異常行動

死亡率30%、後遺症25%

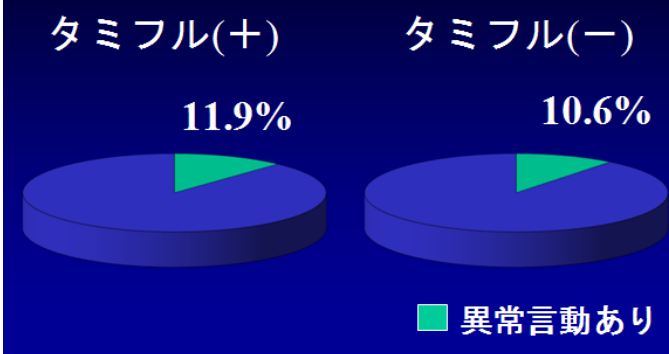
肺炎、脳炎、心筋炎、こういうことが起こりますので、高熱が出たとき、これも比較的簡単に診断がつきます。お口の中から、それから微粘膜から検査しますと、10分ぐらいでわかりますので、高熱が出たら、また新聞等でインフルエンザが流行ってきたという情報を得たら、インフルエンザを疑って早急に検査をして、やはり抗インフルエンザ薬のお薬が必要になってくると思います。

そこで心配になるのが、タミフルによる異常行動でございますけれども、これはタミフルのせいばかりではありません。インフルエンザにかかりますと、特に中高校生対象にいたしまして異常行動が起こります。急に飛び出したり、高いところから落ちたり、うわ言を言ったり、それから熱せん妄状態でおぼけが見えるとか、いろんな異常行動を訴えます。今、タミフルを飲むと二、三日で熱は下がりますので、インフルエンザにかかった場合は、高熱のある間はぜひ子供の近くに大人が寄り添っていただきたいと思います。決してタミフルの副作用だけではなくて、インフルエンザそのものによっても異常行動が起こってまいります。

タミフルによる異常言動？

- 内服3時間半後に裸足で家を飛び出してトラックにはねられた(17歳)
- 内服2時間後にマンションから転落死(14歳)

タミフルによる異常言動



これも、今、流行っておりますウイルス性の胃腸炎です。子供の場合には、ウイルス性胃腸炎のことを、乳児下痢症であるとか、流行性嘔吐下痢症であるとか、冬に流行りますから冬季下痢症とか、あと便が白くなりますから白色便性下痢症、こういう呼び方もしますが、これみんな、すべてウイルス性胃腸炎。例えばウイルス性胃腸炎のことを感染性胃腸炎とも言いますが、これも、同じことと考えていただきたいと思います。

ウイルス性胃腸炎

以下と同義語

- 乳児下痢症
- (流行性)嘔吐下痢症
- 冬季下痢症
- 白色便性下痢症

その代表的なのが、ロタウイルスですね。ロタウイルスも、今、便でこういう簡単な検査ができるようになっております。それからもう一つ有名なのが、ノロウイルスです。非常に吐き気を強く伴う胃腸炎でございます。私が小児科医になったときに、順天堂の小児科で子供の乳児白色便下痢症の研究をしていましたけれども、なかなか、このウイルスが見つからなかったのですね。しかし、オーストラリアで女医さんが、顕微鏡にぽっと便を当てただけでこのウイルスが見つかったのですが、非常に画期的な出来事ございました。

冬に流行るウイルスは、ノロとロタウイルスだけではなくて、アデノとかいっぱいありますから、冬は吐き下しの風邪が流行る、また、それにインフルエンザが流行るといことで、小児科の外来はてんてこ舞いになります。

ノロウイルスは、ご承知のようになかなか加熱にも強いのですから、おうちでできることは限られます。身近でできることは手洗いですから、手洗いをしっかりしてください。白色便というのが、白くなりますけれども、必ずしもノロウイルス、ロタウイルスだけではなくて、子供の嘔吐下痢の場合には白くなるのが特徴でございます。白いから悪いということではないですけれども、白くなる便が特徴と言われております。

ロタウイルス感染症

感染経路) 経口感染

潜伏期間) 1~3日間

症状) 嘔吐・下痢・白色便

合併症) 肝機能障害・脳炎

ロタウイルス迅速抗原検査



(-)



(+)

ノロウイルス感染症

感染経路) 経口感染

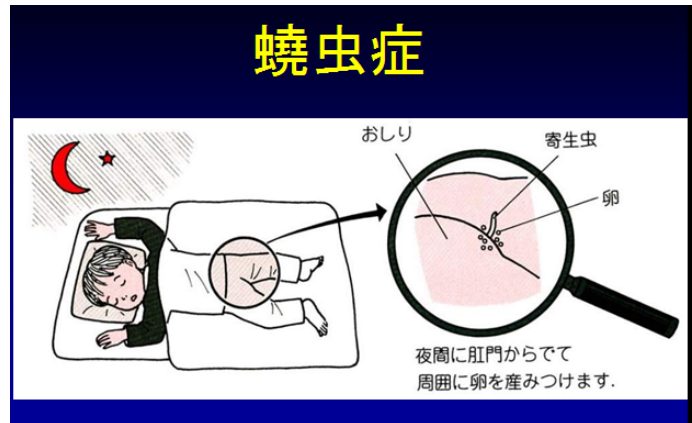
潜伏期間) 1~2日間

感染源) 二枚貝(カキ・アサリ・シジミ)や患者の糞便・吐物

ノロウイルス感染症の予防

- 食品はよく加熱
 - ・ 85°C 1分間以上
- 患者の糞便・吐物の処理
 - ・ 逆性石鹼や消毒用エタノールは無効
 - ・ 次亜塩素酸ナトリウムなどの塩素系漂白剤ハイター、ブリーチ、ピューラックス、ミルトンなど

それからもう一つ、これももう昔のことと思われるでしょうけど、今でもこの蟯虫症は多いのですね。おしりがかゆいというお子さんがおられたら、まず蟯虫の検査をしていただきたいと思います。蟯虫も結構見つかります。蟯虫は、ご家族で一緒に持っている方が多いので、一人蟯虫が出ましたらご家族全員が検査されて、必要ならばお薬を飲んだほうがいいと思います。

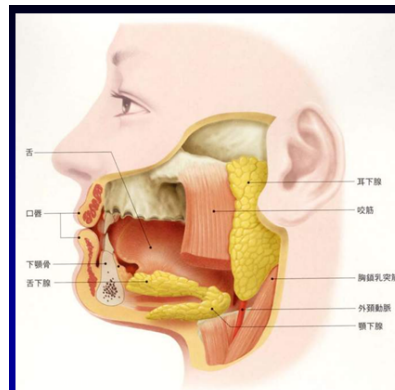
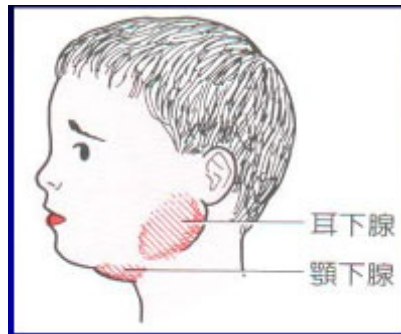


流行性耳下腺炎。難しい言葉ですけど、これは、普通言われるおたふく風邪です。流行性耳下腺炎とおたふく風邪は、全く同じことです。例えば、反復性耳下腺炎という言葉があります。耳下腺炎、耳下腺がはれることを繰り返す子がいますけど、これは流行性耳下腺炎とかおたふく

流行性耳下腺炎

別名) おたふくかぜ
 原因) ムンプスウイルス
 感染経路) 飛沫感染
 潜伏期間) 14~21日間

風邪ではなくて、風邪による耳下腺炎で、これは何回も繰り返しますけれども、流行性耳下腺炎(おたふく)は、



唾液腺

- 耳下腺
- 顎下腺
- 舌下腺

おたふく風邪ウイルスによって起こりますから、

流行性耳下腺炎の合併症

- ウイルス性髄膜炎
- 脳炎
- 睾丸炎・卵巣炎

1回かかれば終生免疫ができて、2回することはありません。唾液腺がはれたり、顎下腺、耳下腺がはれたりします。耳下腺だけではなくて、顎の下がはれることもあります。耳下腺の合併症は、よく髄膜炎とか脳炎、睾丸炎、卵巣炎を起こしますので、おたふく風邪は特に難聴を起こすこともありますから、子供さんがおたふくにかかったときは、耳が聞こえるかどうか、お母さんが注意してあげたらいいと思います。

それから、急性灰白髄炎。これはポリオと言われる病気ですけれども、今、ポリオワクチンがありますから、耳慣れている言葉だと思えますけれども、実際、本当のポリオ、野生株で起こるポリオの患者さんは、30年ぐらいもう日本にはありません。私も小児科医になってポリオの患者さんを診たことはありませんので、お父さん、お母さんも、ポリオという子供さんを目の当たりにすることはないと思えますけれども、世界中で見ますと決してなくなった病気ではありませんので、やはりワクチンが必要ですね。

それと同じように、日本脳炎。これも、もうなくなった病気と思われがちでしょうけれども、世界中を見ると、後でお話ししますが、たくさんあります。ぜひこれもワクチンを受けてください。日本脳炎は、直接人間から人間にうつるのではなくて、蚊を介して、豚が持っているウイルスを蚊が吸って、それを人にうつすという形態になります。ここで出ているように、赤いところはまだまだ日本脳炎ウイルスが分布するところがございます。

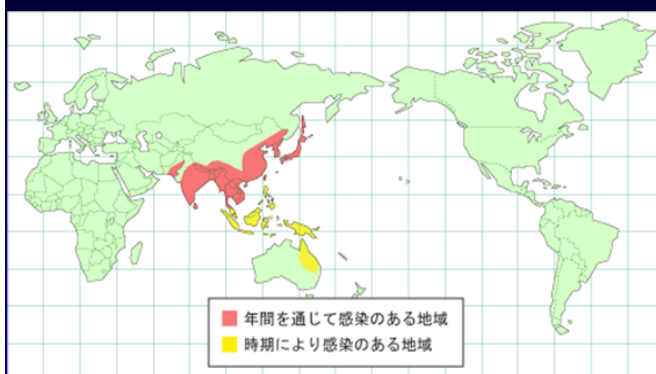
急性灰白髄炎 (ポリオ)

原因) ポリオウイルス
感染経路) 経口感染
潜伏期間) 7日～12日間
症状) 発熱・頭痛・麻痺

日本脳炎

原因) 日本脳炎ウイルス
感染経路) 接触感染
コガタアカイエカが伝播
潜伏期間) 4～14日間
症状) 発熱・頭痛・意識障害

日本脳炎ウイルスの分布



いろいろ前後しますけれども、皮膚の病気で、伝染性膿痂疹。難しい言葉ですけど、お父さん、お母さんは、よく、とびひとお話しになります。これを見ていただきますと、特に向かって右の図がはっきりしていると思いますけれども、水疱を伴ったり、ちょうどやけどを思わせるような状況でございますけれども、やけどと違って、やけどした既往はないし、一日で広がるので、とびひという言葉になっています。非常にいい病名だと思います。急に子供さんが水泡をつくって発疹がふえたら、特に夏ですね、虫刺されとかあせもを引っかき壊して急に発疹が出たら、とびひを疑ってください。

それとちょっと似ているんですけども、伝染性軟属腫。これは俗に、お父さん、お母さん、みずいぼと言われます。これも余り心配ないので小児科は余り取らないのですが、皮膚科の先生は積極的に取られるところもあります。ピンセットでつまんで取ることもありますけれども、結局はウイルスですから、治るには、どうも2年ぐらいかかるようでございます。

頭じらみ。これも決して少なくありません。子供さんの頭をちょっと見ていただいて、髪の毛に白いものがついていたら、ふけと思ってなかなか取れないものは、頭じらみのことが多いですから、ふけですとすぐ取れてしまいますけど、取れないふけは頭じらみを疑って、医者のところに行って顕微鏡で見ると、すぐこういうふうになります。

伝染性膿痂疹

別名)とびひ
原因)

- A群連鎖球菌(=溶連菌)
- 黄色ブドウ球菌

皮膚の弱いところにできやすい

- 湿疹やアトピーで掻いたところ
- 虫刺されを掻いたところ

伝染性軟属腫

別名)みずいぼ

原因)痘瘡ウイルス
感染経路)接触感染
治療)

- ピンセットで摘除
- イソジン+小麦粉
- 漢方薬

頭じらみ



アタマジラミ



アタマジラミの卵

住友製薬株式会社ホームページより

ます。向かって右の卵、これがすぐ顕微鏡で見られますので、頭じらみも気をつけてください。ただ、この頭じらみは、決して幼稚園とか保育園を休ませる必要はありません。適当な治療をしていただければ、ふだんの集団生活は大丈夫ですので、また頭じらみということ公表されると、子供のいじめにつながりますから、その辺はご配慮いただきたいと思います。頭じらみの治療は、昔はDDTという薬がありましたけど、今は、このスミスリンパウダーですね。



次は、予防接種のお話をちょっとさせていただきます。

予防接種もたくさんあります。今日の資料の中に、第一三共さんの資料が入っています。それが一番、今わかりやすいと思います。

ポリオも決してなくなった病気ではありません。

予防接種で防ぐことが可能な病気 定期の予防接種

ポリオ(急性灰白髄炎)ってどんな病気？

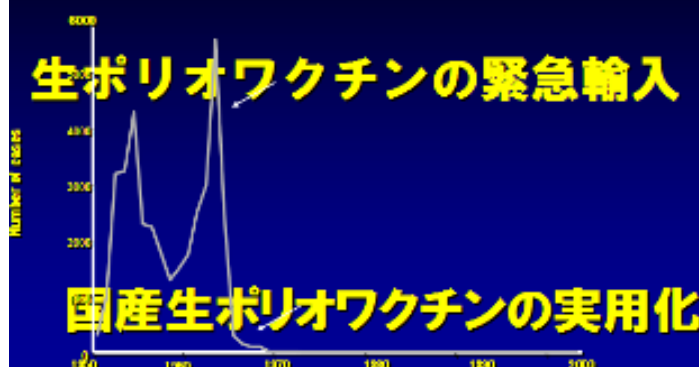
- ・「小児まひ」と呼ばれる病気です。
- ・ポリオウイルスはヒトから人へ感染します。感染した人の便中に排泄されたウイルスが口に入り、腸に感染します。感染したウイルスは3～35日間(平均7～14日間)中で増えますが、そのほとんどが症状がでない不顕性感染ですみ、一生、免疫が得られます。
- ・麻痺の発生率は感染した人の200～1,000人に1人の割合です。

日本では1981年以降、自然感染の報告はありません。しかし、アフリカやインドなどではポリオの流行が残っており、世界の交流が盛んになった現在ではウイルスが日本に侵入する可能性があります。
感染予防のためワクチンで免疫をつくっておく必要があります。

2010/11/24

76

日本のポリオ(小児まひ)1962-2004

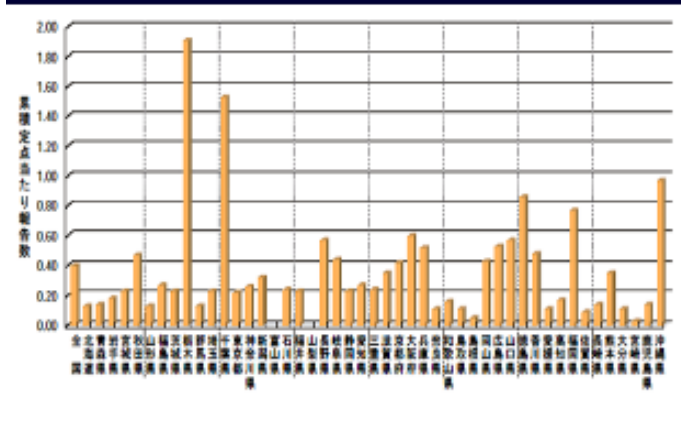


それから、DPTと言われるジフテリア・百日咳・破傷風。この頭文字をとってDPTワクチンとか、三つ入っていますから3種混合ワクチンとも言います。

先ほどお話したように百日咳は流行しておりますから、決して治った病気ではありません。

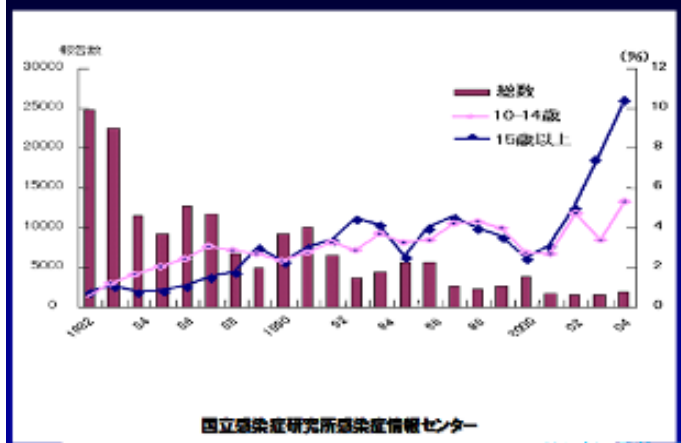
ジフテリア(Diphtheria) 百日せき(Pertussis) 破傷風(Tetanus)

百日せきの都道府県別累積報告状況



2010.11.23 国立感染症研究所感染症情報センター (DWR 2007第1~29週) 30

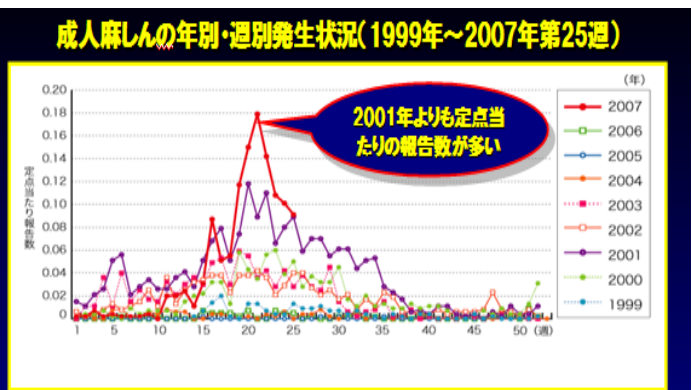
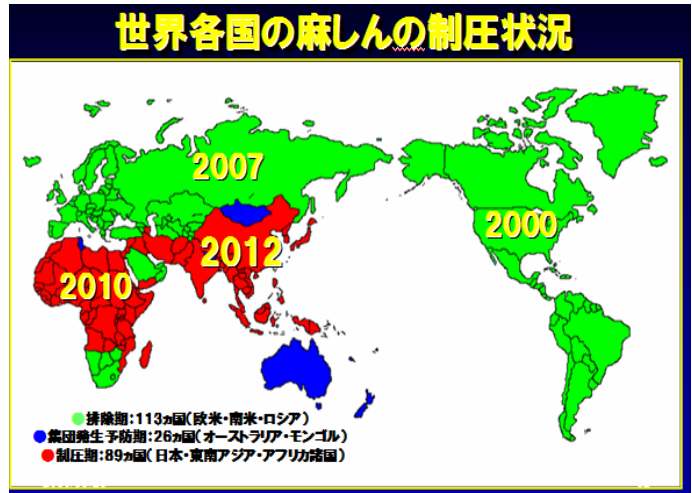
定点における百日せき患者報告数と年長児(10~14歳、15歳以上)の割合



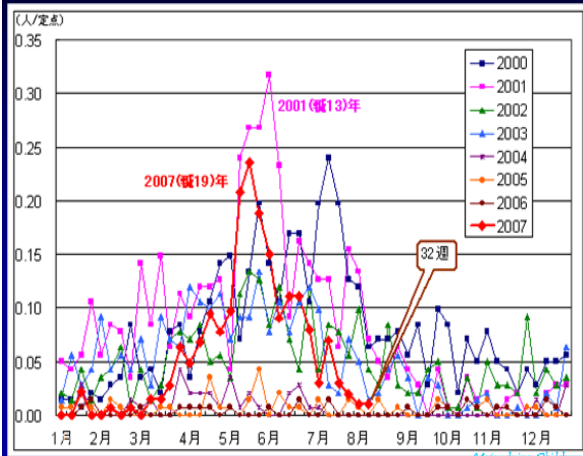
国立感染症研究所感染症情報センター

それから、先ほどお話ししたように、はしかは非常に怖いし、まだまだ世界中を見ますと、赤いところがたくさんあります。日本は、非常に衛生環境もよくて医療が進んだ先進国だと思われるでしょうけれども、麻疹に関しては非常に後進国でございます。まだこのアフリカ、それから東南アジア、それと日本ですね、世界中の中ではしかが流行しているのは、日本を含めたこういう赤いところだけです。ほかは衛生環境が悪いことも簡単に予想できます。日本ではどうして麻疹がまだ制圧できないかということをお考えいただきたいと思います。

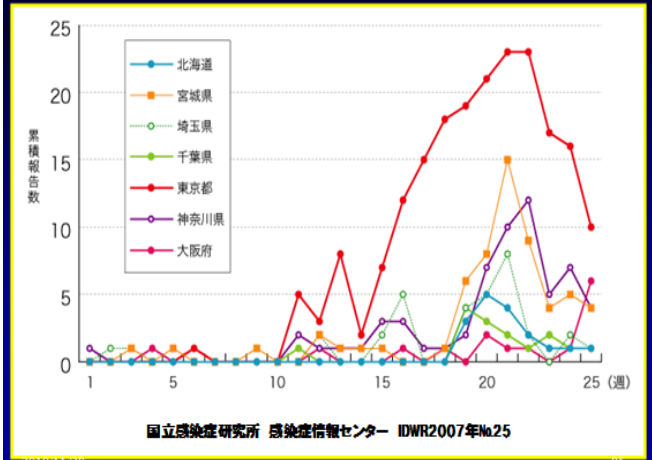
2005年、今から5年ぐらい前、新聞にも、はしかは制圧目前と言われました。しかし、1999年以降、2001年あたりから高校生・大学生を中心にして集団発生したことは、まだ耳に新しいと思います。東京でも、このぐらい流行いたしました。2001年、それから2007年、流行が起こってまいりました。はしかは決してなくなった病気ではありません。ワクチンをしていただかなければ、いつまでも日本からはしかはなくなりませんので、周りの子供さんたち、それから、後で出てまいりますけれども、中学1年生、高校3年生を見ましたら、はしかワクチンをしたかどうか、逐次問いかけていただきたいと思います。



東京都感染症週報 麻疹患者報告数推移(小児科定点報告)



主要都道府県における成人麻疹報告の週別推移 (2000年~2007年第25週)



国立感染症研究所 感染症情報センター IDWR2007年№25

忘れてませんか？ 2回目の麻疹・風しんワクチンを！

ランドセルに名前を...
親子手帳にワクチン名

小学校入学準備に
2回目の麻疹・風疹ワクチンを！

2006年4月1日以降、定期の予防接種としては麻疹・風しん混合ワクチンの接種が開始となり、同年6月2日から下記の年齢での2回接種となりました。第1期、第2期を過ぎてしまうと定期の予防接種として受けられなくなってしまいます!!
小学校の入学前に接種がすすんでいるかどうか確認しましょう。
第2期でまだ麻疹と風しんの予防接種をそれぞれ2回づつ受けていないお子さまは、かかりつけ医とよく相談し、ぜひとも2007年3月31日までに受けましょう。

3/31
2007年3月31日

2006年4月1日以降、定期の予防接種としては麻疹・風しん混合ワクチンの接種が開始となり、同年6月2日から下記の年齢での2回接種となりました。第1期、第2期を過ぎてしまうと定期の予防接種として受けられなくなってしまいます!!
小学校の入学前に接種がすすんでいるかどうか確認しましょう。
第2期でまだ麻疹と風しんの予防接種をそれぞれ2回づつ受けていないお子さまは、かかりつけ医とよく相談し、ぜひとも2007年3月31日までに受けましょう。

国立感染症研究所 感染症情報センター IDWR

風しんは、なぜ予防するの？

- ◆ 血小板減少性紫斑病・脳炎等の合併症が存在する。
- ◆ 妊娠初期に妊婦が風しんに罹患すると先天性風しん症候群の児を出産する可能性が高い。